

講演会

# ユニバーサル・ミュージアムとは何か ——触文化論に基づく展示・教育普及事業

近年、日本の博物館・美術館において「ユニバーサル・ミュージアム」（誰もが楽しめる博物館）という語をよく耳にするようになりました。しかし、その定義はまだまだ曖昧で、研究・実践の両面で今後の進化・深化が不可欠です。本講演では「ユニバーサル・ミュージアム」を「感覚の多様性が尊重される博物館」と定義し、国立民族学博物館での事例を紹介していただきます。

**講師：広瀬 浩二郎 氏**  
(国立民族学博物館准教授)

**日時：2018年3月21日（水・祝）**  
**午後2時～3時30分**  
**神奈川県立近代美術館 葉山講堂**

**定員：当日先着40名**  
**午後1時30分に開場します**  
**参加費無料**

**主催：神奈川県立近代美術館**  
(公財) かながわ国際交流財団

**広瀬 浩二郎** ひろせ こうじろう

東京都出身。13歳で失明。  
筑波大学附属盲学校を経て、京都大学へ進学。  
2000年に同大学院文学博士号取得。  
2001年より国立民族学博物館勤務。

著書

『宗教に顕れる日本民衆の福祉意識に関する歴史的研究』京都大学大学院文学研究科博士論文、2000年  
『人間解放の福祉論－出口王仁三郎と近代日本－』解放出版社、2001年

本講演会は**マルパ (MULPA)** の関連イベントです。

神奈川県内の4つの美術館（神奈川県立近代美術館、茅ヶ崎市美術館、平塚市美術館、横須賀美術館）の館長・学芸員と、地域を同じくする芸術祭連携団体の実行委員等が（公財）かながわ国際交流財団の呼びかけで集まり、2016年度に立ち上げられたアートプロジェクトです。

MULPA（以下、マルパ）とはMuseum UnLearning Program for Allの頭文字を取った略称で、日本語では「みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業—」としています。マルパは多様性を認め合う社会を目指して、定住外国人や障がいを持つ方々を含む「すべての地域住民」の美術館へのアクセスを目的としています。地域の美術館が芸術祭や大学と連携して包摂的な教育普及事業を検討・展開していきます。

## 共生・地域・アンラーン～3つのキーワード～

マルパでは、「（多文化）共生」、「地域連携」、「アンラーン」という3つのことばを大事にしています。中でも「アンラーンunlearn」は、今回のプロジェクトで新たに提示されたキーワードで、日本語で「まなびほぐす」という意味です。

そこにはステレオタイプ化した美術館イメージを問い直す、という意図が込められています。2020年のオリンピック・パラリンピックイヤーに向けて、美術館が本当の意味での地域のハブとなれるよう、「社会を包む」ワークショップ等を参加館で実施していく予定です。



お問い合わせ先  
神奈川県立近代美術館 葉山  
〒240-0111  
神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1  
TEL 046-875-2800（代表）  
<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>  
公式ツイッター @KanagawaMoMA

**MULPA**  
Museum UnLearning Program for All  
みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業